



広島原爆投下日に合わせて鐘を鳴らすSD-WISH 特別顧問で広島原爆被爆者の河村幾之助氏



式典開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さん。前列左から:Olga Illinskaさん、Levくん、Reiくん、Joe Freitagさん、2列目左から:Jamesくん、Maiさん、Freitag 有美さん、Ostwald 尚実さん、3列目左から:Cheryl Lunsford先生、Dr.美甘章子、Mathew Pilgerくん、河村幾之助さん、後列左から:Christine Pilgerさん、Owen Millerくん、Don Pilgerさん、Laura Pilgerさん



「友好の鐘」の前に、花束をささげる Levくん(右3歳)と被爆3世のMaiさん(左9歳)とReiくん(中央5歳)。鐘はサンディエゴと姉妹都市提携を結んでいる横浜市から寄贈された



司会を担当したミッションベイ高校2年生のマシュー・ピルガー君(Matthew Pilger 15歳)



原爆の日(8月6日)にサンディエゴでインターネット配信による平和祈念式典開催
International Peace & Humanity Day 2023
Presented by SD-WISH via Internet



国際平和とヒューマニティーの日

全人類が生命の尊厳を認識して 一刻も早く核兵器の廃絶と永遠の平和を!

8月5日(土)午後4時から、インターネット配信による平和祈念式典がサンディエゴで開催されました。このイベントは、市民団体「サンディエゴ・ウィッシュ〜世界平和を願う会(SD-WISH)」が、広島原爆投下日に合わせて開催したもので、今年も昨年同様、記念式典と関連動画をインターネットで配信しました。イベントの様子は次のリンク先からご覧いただけます。<http://sdwish.org>

本年度のプログラムは、サンディエゴ高校のジャパクラブの高校生達を中心になって企画。平和式典の司会進行は、ミッションベイ高校2年生のマシュー・ピルガー君が担当しました。

まずマシュー君が、松井一寛広島市長と鈴木史朗長崎市長のメッセージを紹介。そして、SD-WISH 代表で被爆2世でもある Dr.美甘章子がニューヨークの国際連合本部を背景にビデオスピーチを行いました。国際連合プラザでは、Dr.美甘の著書を原作にしたドキュメンタリー映画『8時15分 ヒロシマ 父から娘へ』がプレミア上映され、その映画はPBS(公共放送サービス)で8月5日から全米50都市で放送されました。Dr.美甘は、湯崎英彦広島県知事のメッセージを紹介。「SF映画ではなく、現実核戦争の脅威が迫っている状況の今こそ、全世界の人たちにヒロシマを学んで欲しい」と、無料配信を企画した背景を語り、SD-WISHの式典に参加された方々や準備に携わった人々へ、感謝の言葉を述べました。

その後、サンディエゴの式典会場に戻り、Lev君(3歳)と被爆3世で小学4年生のMaiさん(9歳)とRei君(5歳)が「友好の鐘」の前に花束をささげました。

4時15分、広島原爆投下日に合わせて、SD-WISHの特別顧問で広島原爆被爆者の河村(マイク)幾之助氏が友好の鐘を3回鳴らし、会場にいる皆さんと世界平和を祈念しました。

続いて、特別プログラムとして、カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)のOwen Miller君が、ウクライナ出身の言語学者・翻訳家、オルガ・イルンスカ(Olga Illinska)さんにインタビューを行いました。



英日露語に堪能なウクライナ人のオルガ・イルンスカさんは、ロシア侵略後、SDに移住。現在、パウエイ統一学区の小学校で日本語を教えるとともに、国際救援委員会で翻訳サポートを提供している



カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)1年生のOwen Miller君が、ウクライナ出身の言語学者・翻訳家、オルガ・イルンスカ(Olga Illinska)さんにインタビューを行いました



ビデオスピーチをするDr.美甘章子 映画はPBSで全米に放送された

映画の主人公でDr.美甘の父、進示さん

Dr.美甘の著書を基に制作されたドキュメンタリー映画『8時15分 ヒロシマ 父から娘へ』は国際連合プラザでのプレミア上映を果たし、その後8月5日からPBS(公共放送サービス)にて全米50都市で放送された

英語、日本語、ロシア語に堪能なオルガさんはキーウ出身の言語学者・翻訳家で、ウクライナの日本大使館や国連開発プログラムでの経験があります。2022年のロシアの侵略後、彼女は深夜、2歳の息子と共にウクライナを去ること余儀なくされ、サンディエゴに移り住み、現在、小学校で日本語を教えるとともに、国際救援委員会で翻訳サポートを提供しています。

オルガさんは避難中に経験した困難や課題が、自身の国際平和に対する視点を深化させたと言います。「内面の平和を育むことが、外部の平和を実現する第一歩である」と強調しました。さらに、「わずか4.5日間の軍事費で地球上の全ての子どもたちを学校に通わせることができる」というノーベル賞受賞者マラーラ・ユスフザイ氏の言葉を引用し、教育が戦争を防ぐ鍵であると指摘。

また、「グローバルネットワークの進化は、情報の拡散を早める一方で、情報の真偽判別が困難になった」と語り、世界の平和が「異なる人や考え方への寛容、対話、対立の克服、そして連帯の拡大」という私たち一人一人の生き方の変革から始まることと熱く語りました。最後に、「San Diego-WISHの皆さんが示しているように、私たちは平和への揺るぎない信念を持ち、他者を触発する役割を担いましょう。それは種を植え、大きな木へと成長させる献身的な取り組みと同じです」と締めくくりました。そして、午後4時45分、ピルガー君の閉会の言葉でイベントは終了しました。

SD-WISHの特別顧問である河村さんは、次のように話しています。「式典終了後、日本、米国内の多くの皆様からご理解とご賛同を頂きました。今回の式典開催にはスティーブン・シガフス氏、奥様の貴美子さん、オルガ・イルンスカさん、ピルガー夫妻、司会役のマシュー・ピルガー君、動画撮影を担当した国長晃司さん、佐々木千華さん、サンディエゴ高校の皆さんと卒業生のオーエン・ミラー君のご支援、ご協力に感謝いたします。今後とも、若者の平和への思いを配信できるよう努めます。皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



Dr.美甘は2014年11月、英国の財団から「世界平和と繁栄のための国内外の類稀な貢献に対する賞」を受賞。同博士

の著書「8:15: A True Story of Survival and Forgiveness from Hiroshima」が被爆者で主人公である父、美甘進示氏の人生と許しのメッセージを伝え、世界平和と次世代の繁栄に多大な貢献をしていることが高く評価された

和 San Diego WISH Worldwide Initiative to Safeguard Humanity

San Diego-WISH
▽目標: 全人類・異文化・国家間の平和と調和を促進する。▽使命: 日米友好再建の前例なき経験を歴史が語る例として伝え、人類が調和の中で生きられるよう啓蒙活動を行う。▽委員会: 代表: 美甘章子、副代表: ジョシュア・トーレス、特別顧問: 河村(マイク)幾之助、委員: 佐々木千華ほか2名 ▽ホームページ www.sdwish.org, Email: info@sdwish.org (US-Japan Psychological Services 内 SD-WISH 事務局)